

Contest

【過去の結果発表】

002年ファンファーレ作曲コンテスト 結果発表

ズーラシアンブラス作曲コンテストの第2のカテゴリ『ファンファーレ作曲コンテスト』が行われ、14作品の応募があり、2つの入選作品が選ばれました。
今回はアマチュアの方々はもちろんのこと、プロの作曲家として活躍されている方までご参加下さいました。また、素晴らしく格好良い旋律を持った作品も多く、前回に引き続き力作揃いでした。

応募下さった皆さん本当にありがとうございました。

そして、入選された皆さんおめでとうございます。7月中旬をメドに ZOORASIAN BRASS Web shop にて販売を開始いたします。

残念ながら、惜しくも入選に至らなかった皆さんも、次回の『オリジナル作曲コンテスト』に再度挑戦してください。

(2002/06/30)

Little Fanfare 作曲：小笠原寿子 試聴は→[こちら](#)

【コメントとプロフィール】

『Little Fanfare』

「演奏者全員が楽しめるように」ということを心掛けて書きました。テーマのところは華やかに。中間部は少し音量を落としてレガートで、でも威厳を持った感じで演奏してみてください。

中間部の最後4小節に、3人の掛け合いがありますが、そのあたりの和声の響きの移り変わりを、感じとってもらえると嬉しいです。

そして、またトランペットの華やかなテーマが表れたあと、全員で元気よく終わります。

=====

入選について

入選できたこと、大変うれしく思います。

とってもいい天気の日、インドライオン、ホッキョクグマら5人がさっそうと演奏するまわりで子供たちが楽しそうに笑っている、、そんな光景を想像しながら書きました。

実際に音に出してもらえたら、と思って応募したのですが、楽譜が出版されて私の知らない場所で誰かが演奏してくれるかもしれないことを考えると、なんだかワクワクします。

ありがとうございました。

2002年6月 小笠原寿子

●小笠原寿子

子供のころにピアノに出会い、音楽が大好きになる。中学、高校では吹奏楽部に所属し打楽器を担当。明治学院大学卒業後、一般企業に勤務。退職後、ピアノ・バーなどでピアノを弾きはじめる。現在、東京芸術大学別科作曲専修1年。

Fanfare for 6 作曲：與儀亨 試聴は→[こちら](#)

【コメントとプロフィール】

『Fanfare for 6』

この作品は色々な行事（イベント）等の幕開けの前に演奏されるように書かれています。華やかに演奏されるよう楽譜に書かれている強弱記号より更に幅を持たせた方が効果的だと思います。また、野外など広い場所では演奏者を増し、ダブルやトリプルの編成で演奏しても良いと思います。

=====

入選について

あまり読む機会のない「バンドジャーナル」を手に取り、最初に開いたページの欄に「ズーラシアンブラスの作曲コンテスト」の募集が載っていました。早速連絡を取り募集要項を取り寄せたのですが、あいにくと「童謡アレンジコンテスト」はすでに募集期間が過ぎており、次回の「ファンファーレ」に応募しました。しかし、あまりにも期限が切羽詰まっております、しかもなかなか筆が進みません。あまり期待もせずに出品しました。数日後ズーラシアンブラス事務局より連絡があり非常に驚きました。時間がたつにつれ心の中からじわじわと喜びが沸き上がってきたものです。

今までは楽器編成の大きな作品を中心に書いていたのですが、これからは室内乐的な小編成の作品も多く書いてみたい気持ちです。

本当にありがとうございました。

2002年6月 與儀 亨

● 與儀 亨

1952年生まれ。東京において数多くの作曲家に師事。1976年渡米。帰国後8年間私立高校音楽科で理論及びソルフェージュの講師として勤務し、そのかわり「沖縄の現代作曲家展」を6人で結成。年1回の割合で作品展を開催。海邦国体（1986年）第44回全国植樹祭（1991年）スポレクおきなわ（1997年）等の式典音楽を担当。

主な作品：「赤田首里殿内による変奏曲」「4本のフルートの為の小組曲」「オーケストラのためのシンフォニエッタ」「3本の管楽器とオーケストラの為のダイアログ」「ホルンとピアノの為の葛藤」等多数。また、数多くの編曲作品等。

【審査員】

中川 喜弘 Trumpet 奏者・アレンジャー

大塚 子龍 ZOORASIAN BRASS 専属アレンジャー

小曲 俊之 Trumpet 奏者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS

中西 和泉 Trombone 奏者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS

【総評】

ファンファーレ作曲コンクールに相応しく、格好良い旋律が目白押しでした。入選作品以外にもかなり良いフレーズを持った作品が多数あり、審査員一同悩みました。手直しして再提出していただくか・・・等という意見も出されましたが、最終的には上記の2作品を選出することとなりました。

入選の分かれ目は、構成力と完成度となりました。ファンファーレは短い楽曲の中でドラマが展開されますので、楽曲に対する計画性が重要な要素となります。童謡アレンジの場合、大枠ではイントロ～メロディー～エンディングと特に計画性が無くても必然的に構成が見えていますが、作曲の場合はこれを自らが行わなくてはならないので、入選作品とそれ以外では、最初から計画的に構成された方と、冒頭から成り行きで作曲された方との差が著しく現れました。また、コードプロGRESSIONもメロディーをアレンジする場合には基本的な進行はメロディー自体が持っているために大きな間違いは起こりにくいのですが、作曲の場合はこれも自らが計画的に行わなくてはならないため、和声や対位法に対する知識や力量の差がはっきりと出てしまった感じがします。中には、自由にできる分、でたらめな和音を多用していらっしゃる方も見受けられました。

一部の方を除いては、音楽的センスがフレーズににじみ出ていて、本当にもったいない作品が多数ありました。おそらく作曲されたご本人も冒頭のあまりの素晴らしさに後半どのようにまとめて良いか分からなくなってしまったのではないかと推察いたします。BRASS的な格好良さでは、入選作品を遙かに凌ぐフレーズも多数ありましたが、思いついた全てのアイデアを無理矢理短い楽曲に詰め込んでいる方も多く見受けられました。

今回は、そうした点から、主題が明確で構成もキッチリされており、楽器の使い方も無理のない作品が選出される結果となりました。

また、今回は JASRAC に信託されている、プロフェッショナルコンポーザーに参加いただいたことを事務局一同大変嬉しく思いました。